

部局名：

大学院ヘルスシステム統合科学研究科

部局長名：

横平 徳美

目標・取組	関連する 年度計画の番号	目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>課題とその対応目標および対応策:PDCA実施体制の充実を図り、「教育の質保証」を維持しつつ、ポストコロナに向けて更なる向上を目指すために、以下の事項を実施する。 [課題1-1] 教育活動の継続的な改善と教育の国際化 [目標と対応策1-1] FD研修会を開催し教育活動改善の検討を行う。また教育の国際化を意識したブレFD・SD研修も必要に応じて開催する。 [課題1-2] 学位プログラム化に向けた博士前期課程教育カリキュラムの見直し [目標と対応策1-2] 教育効果のより高い統合科目より深化させた各専門科目から構成される体系的なものに見直し、学位プログラム化を目指す。 [課題1-3] 異分野融合教育、倫理教育の質保障 [目標と対応策1-3] 医療機関・介護施設・企業との社会連携の下、社会実装へのアイデア創出のための異分野融合教育、倫理教育を実施する。 [課題1-4] 定員充足に向けた教育環境整備や広報活動の推進 [目標と対応策1-4] 研究科のパンフレットを更新しWebページのコンテンツを充実させる。博士前期課程に英語で修了できるコースを設置し、また海外特別入試を充実させる。国際的インターンシップやジョイントディグリー制度の導入を検討する。交流協定に基づく学生の受入・派遣を促進する。博士後期課程学生への経済的支援を充実させる。 [課題1-5] 社会人学生への授業対応や研究指導体制の整備、リカレント教育の検討 [目標と対応策1-5] 無線ネットワーク環境やICTツールを活用して、社会人学生(遠隔地・繁忙期)への授業対応や研究指導体制を整備する。社会のニーズ等を調査・分析し、新たなリカレント教育を検討する。 [課題1-6] 教育活動の客観的指標による目標達成 [目標と対応策1-6] 定員充足率、就職率、休学率、退学率、学生海外派遣数、留学生入数について目標値達成を目指す。 継続実施の目標:博士後期課程では、改編したカリキュラムを確実に実施し、今後の見直しに向けた課題を整理する。</p>	<p>(2-1-1) (5-1-1) (6-1-1) (7-1-1) (7-1-2) (7-1-3) (7-1-4)</p>	<p>教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p> <p>[実施状況1-1]FD研修会を2回(2022年12月2日および2023年3月29日)開催し教育活動改善の検討を実施した。 [実施状況1-2]学務委員会を中心として、博士前期課程教育カリキュラムをより教育効果の高い体系的なものに見直し、学位プログラム化した。 [実施状況1-3]博士前期課程科目「先進病院実習」と「実践バイオデザインコース」にて岡山大学病院と、また統合科学コーディネータによる「岡山西リビングラボ」にて企業などと連携し、社会実装へのアイデア創出のための異分野融合教育、倫理教育を推進した。 [実施状況1-4]研究科のパンフレットを更新し、Webページのコンテンツを充実させた。英語で修了できるコースとして、3つのコースを2022年10月より開設し、海外特別入試を充実させた。インドのSister Nivedita大学や台湾の長庚大学と国際的インターンシップやジョイントディグリー制度の導入について協議を進めた。また、RA制度などにより博士後期課程学生への経済的支援を行った。ONECUSなど交流協定に基づく学生受入が徐々に再開しつつある。 [実施状況1-5]新たなリカレント教育として、大学病院・医歯薬学総合研究科・自然科学研究科・民間企業等の協力のもと岡山大学「デジタルヘルス人材育成プログラム」を実施した。 [実施状況1-6]定員充足率については博士前期課程、博士後期課程とも100%を達成した。しかしながら、コロナ禍により、学生海外派遣数と留学生入数については目標値を達成できなかった。 継続実施の目標:全学の方針を考慮して、学務委員会を中心として、博士前後期課程をシームレスに連結した学位プログラムの構築のための検討を行い洗練させる。</p>
<p>②研究領域</p> <p>課題とその対応目標および対応策:ポストコロナに向けた超高齢社会におけるヘルスシステム関連の諸問題の解決を目標として、医工学連携や文理融合などの研究科独自の統合科学的手法を用いた学際研究を推進し、SDGsに資する国際研究拠点形成を目指す。 [課題2-1] 研究科が網羅する学術領域における独自性と多様性を追求し、ヘルスシステムに関する科学の新たな流れを創造する先導的学問分野を開拓する。[目標と対応策2-1] 統合科学による文理融合型研究プロジェクトやグローバル化プロジェクトの推進と若手研究者支援を検討する。 [課題2-2] 国際拠点形成活動の支援:若手、女性教員を中心とした海外協定校との研究者交流を推進し、強化すべき学術研究分野の国際共同研究数を増やすために、学外研究機関等との連携を強化して次世代研究拠点確立の枠組みを構築する。[目標と対応策2-2] UNCTAD短期外国人研究者の積極的な受入などにより、大学院生若手研究者の海外派遣や交換交流を推進することで、国際共同研究強化を行う。 [課題2-3] ヘルスシステムに関連する学内外の組織との分野横断型研究を強化し、質量ともに高い研究成果を創出し、学内外にそれらの情報発信を行う。[目標と対応策2-3] 発表論文数、国際共著論文数、国際共著率、Q1ジャーナル発表数について目標値達成を目指す。 継続実施目標:客観的指標による目標として科研費申請率・新規採択率、科研費獲得金額、特許件数、共同研究受入金額・件数、受託研究受入金額・件数、寄附金受入件数の増加を目指す。</p>	<p>(7-1-1) (8-1-1) (8-1-2)</p>	<p>研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p> <p>[実施状況2-1]統合科学による文理融合型研究プロジェクトの推進と若手研究者支援のために「デジタルヘルス人材育成プログラム」として各部門に研究経費支援を行なった。さらに、新たな学問領域である統合科学の周知・普及の一環として、4部門の若手研究者による2022年度サイエンス・カフェ2022をオンラインにて2回開催した。 [実施状況2-2] ヘルスシステムに関連する学内外の組織との分野横断型研究を強化し、国際拠点形成の一環として、国際シンポジウムISFT2023第14回高度医療都市を創出する未来技術国際シンポジウム「～新世代の夜明け:安全・健康が約束された世界へ～」を開催した。また本シンポジウムに先駆けて留学生確保のために、海外学生を対象にTutorial Sessionをオンラインにて行なった。 [実施状況2-3] 研究科独自に発行している「統合科学」を通して、質の高い研究成果を国内発信し続けている。癌幹細胞を未分化細胞から人工的に調製する独自技術を活かし、生物工学的に研究、これを診断・治療・医薬開発へ応用する技術として社会実装することを目的として寄付研究部門「癌幹細胞工学研究部門」の設置を継続する。科研費採択に関しては、現員数に対する継続課題の件数および新規に応募した件数の割合が120%に増加した。また、新規採択件数も3倍弱に増加した。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>課題とその対応目標および対応策:ポストコロナに向けた超高齢社会の諸問題の解決への貢献のために、以下の事項を実施する。 [課題3-1]ヘルスシステムを対象として、統合科学的手法によるSDGs活動を推進する。[目標と対応策3-1]統合科学に関する専門書籍の翻訳・出版を企画する。 [課題3-2]ソーシャルイノベーションを起こす拠点の形成を目指す。[目標と対応策3-2]学生・社会人のスキルアップやキャリアアップ、リカレント教育を支援するために、岡山西リビングラボを継続して定期的に開催するとともに、IT・ヘルスケア・起業の3つに関する知識を有するデジタルヘルス人材の育成に関するセミナー等を企画する。 [課題3-3]医工学連携等異分野融合領域をはじめとした当研究科のシーズに基づく成果や研究活動を積極的に発信する。[目標と対応策3-3]シンポジウムや講演会を企画開催し、ヘルスシステムに関する統合科学研究の成果を積極的に発信するとともに、研究情報の提供や学術的な知の平易な紹介を目的として市民講座等を開催する。 [課題3-4]ヘルスシステムに関する研究成果を社会に還元する。[目標と対応策3-4]研究成果を、医療、福祉分野での社会ニーズに対応して実用化することを検討する。 継続実施目標:客観的指標として、共同研究件数、受託研究件数、研究会および学会発表件数、国際シンポジウム発表件数、論文数、書籍出版件数について目標値達成を目指す。</p>	<p>(6-1-1) (10-1-2) (10-3-1) (14-1-3)</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p> <p>[実施状況3-1]ヘルスシステムを対象として、統合科学的手法によるSDGs活動を推進するために、統合科学に関する専門書籍を出版した。 [実施状況3-2]ソーシャルイノベーションを起こす国際拠点の形成のために、岡山西リビングラボを継続して定期的に開催した。また、IT・ヘルスケア・起業の3つに関する知識を有するデジタルヘルス人材の育成を目的とする岡山大学「デジタル人材育成プログラム」が令和3年度文部科学省補正予算事業に申請・採択され、学外24人の受講生に対して第4学期に実施した。受講生に対するアンケート結果によれば、極めて好評であった。来年度以降は、文部科学省からの補助はないが、全学の協力をいただきつつ、本研究科を中心に自主継続する予定である。 [実施状況3-3]2023年1月18日～20日に、研究科主催のオンライン国際シンポジウムを開催した。また、サイエンス・カフェを11月と12月に開催し、医工学連携等異分野融合領域をはじめとした研究科の研究活動を積極的に発信した。さらに、研究科の教育・研究の発信のために、研究科のWebページを更新整備した。 [実施状況3-4]岡山大学病院や医歯薬学総合研究科と共同で、医療現場での課題解決の社会実装に取り組み、がん診断、新型コロナウイルス感染症対策や医療教育に関して成果を挙げつつある。</p>
<p>④管理運営領域</p> <p>課題とその対応目標および対応策: [課題4-1] 研究科の現状を把握し、戦略的に運営する。[目標と対応策4-1] 外部評価、教職員や学生の意見等を活用して検討した戦略に基づいて運営する。特に、分野の異なる教員の融合や学生の融合を積極的に推進する。また、デジタル田園健康特区事業への積極的な参画を検討する。 [課題4-2] 女性教員・外国人教員の積極的な採用を検討する。[目標と対応策4-2] 教員公募において、厳正な評価の下で女性教員や外国人教員の採用を検討する。 [課題4-3] 新型コロナウイルス感染症に適切に対応する。[目標と対応策4-3] 必要な情報の迅速な伝達やリスクアセスメント、ICT技術の積極的な利用などにより、教育・研究活動の質を低下させないような対策を講じる。また、学生支援のために、学生のRA/TA経費に対する予算を配分する。 継続実施目標: ・安全衛生、情報セキュリティ、コンプライアンスなどに関する講習会受講を促進し、構成員の意識向上を図る。 ・客観的指標として、月例会議開催1回以上、FD等の研修会を年1回以上、また、学生のRA/TA経費に対する予算配分、安全衛生・コンプライアンス教育講習受講率、共用スペース活用状況、外国人教員割合、女性教員割合、若手教員割合目標値の達成を目指す。</p>	<p>(1-1-3) (3-1-2)</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p> <p>[実施状況4-1] 統合科学に関するFD研修会を2回開催し、分野の異なる教員の融合を積極的に推進した。また、デジタル田園健康特区事業への参画を検討した。 [実施状況4-2] 教員公募において、厳正な評価の下で女性教員や外国人教員の採用を検討したが、業績等不足により、採用には至らなかった。 [実施状況4-3] SDGsを推進する統合科学プロジェクトの推進や次世代人材育成のための予算を配分した。また、RA学生を雇用した。 [実施状況4-4] 新型コロナウイルス感染症に関して、必要な情報の迅速な伝達やリスクアセスメントなどにより、教育・研究活動の低下を最小限に抑えた。また、安全衛生、情報セキュリティ、コンプライアンスなどに関する講習会受講を促進し、構成員の意識向上を図った。 客観的指標に関して、月例会議開催1回以上、FD等の研修会を年2回開催した。また、統合科学プロジェクトの推進や次世代人材育成のための予算を配分した。また、RA学生を雇用した。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。